

第7回評価委員会における第二期中期目標（法人素案）に対する
委員意見及び法人対応案

意見	法人対応案
<p>全体として簡潔になり迫力がない。前文に法人の4つの危機意識（①教育への取り組みの弱さ ②教務事務体制の弱さ ③病院と大学の財務構造の違い ④市と大学との施策連携）が明確に出ていた方がいい。</p>	<p><u>4つの危機意識を整理し「教育力、研究力の強化と、これらを支える大学の運営基盤の整備」といった視点に絞り込んで前文の中で明示。</u></p>
<p>第二期目標（素案）の前文が2つの基本方針にどう繋がるかわかりにくい。</p>	<p><u>意見の趣旨に沿って修正。</u></p>
<p>「我が国の産業経済を支える中核都市である名古屋市」「都市型の高等教育機関」のイメージが不明である。</p>	<p><u>表現を修正。</u></p>
<p>経済学部・人文社会学部・芸術工学部の取り組みについての記載がない。</p>	<p>中期目標（素案）は全学的視点からの取り組みに特化し、「持続可能な共生社会の実現」というテーマの下、より広く本学の歴史と実績を活かした教育研究分野に重点的に取り組むことを記載。</p>
<p>学部の改編についての記載は、外部の者には分からない。市民に伝わるだけのアピールが必要。</p>	<p>学部の改編には多額の予算が必要であり、財源の裏付けもなく目標に掲げることはできないことから、抽象的・一般化した表現とした。</p>
<p>事務部門の強化を積極的に進めていけば、職員の士気の低下を防ぐことができるのではないか。</p>	<p>同様に認識している。</p>
<p>法人の危機意識の1つに病院と大学との財務システムの問題があるが、それを中期目標で適切に表現をして欲しい。</p>	<p>「適切な財務分析に基づく安定した財務運営の指標と指針を確立」と記載。</p>
<p>理事長のリーダーシップを目標に記載するのであれば、前向きな方向性を目標に入れるべきではないか。</p>	<p>教育力、研究力の強化と、これを支える基盤整備には、理事長のリーダーシップは不可欠だと考えており、法人化後「法人運営の責任は法人にある」という意識に変わったことから、大学のなすべきことができる基盤を整備しようとするもの。</p>
<p>法人化により自主・自律的運営へと移行したはずだが、そのような目標が書かれていない。</p>	

中期目標と合わせて中期計画も一緒に議論したい。	第8回評価委員会で中期計画の骨格を提示。
運営体制を支える基盤をどう整え、維持するかが大きな課題である。	第二期中期目標の最重要課題と認識している。
全体として総花的で抽象的。どう具体化するかが大切である。	中期目標は方向性を示すものであることから、取り組みの具体化については中期計画又は年度計画の作成の中で検討する。
新しい教育プログラムや特色を出して、学生に選ばれる名市大となる戦略を考えるべき。	
中期目標の中で、名市大はどの地域で国際化をはかるのか、具体的な地域を掲げるべきではないか。	様々な国々の大学と様々な形態で交流活動を実施したいと考えているので、中期目標で地域を限定的に捉えることは考えていない。
第一期目標でも広報体制の強化について記載があるが、第二期では何を広報するのか具体的なイメージが必要である。	本学の魅力を確認した上で、戦略的な広報を行う必要があると考えるが、具体的な取り組みは、中期計画又は年度計画の作成の中で検討する。
教養教育・学部教育・専門教育をどうするのか、また教育の実施体制やカリキュラムを第二期ではどのようにするのか。	今後の中期計画又は年度計画の作成の中で検討する。
名市大の特徴を出し、オンリーワンの大学を目指すべき。	<u>本学の考え方を理解いただけるよう、前文及び教育の部分を中心に修正する。</u>
中期目標の教育の部分強化すべき。	

※二重線箇所は法人による中期目標（案）修正箇所